

身体障害者福祉ホーム コーポラスこくふ

コーポラスこくふは、働く障がい者のために平成5年創設されました。以来22年、10室ある部屋は現在全室利用されています。10名中2名は、他の就労継続支援B型事業所に通所し、8名は隣接するウィール社に通所しています。

基本方針

土佐厚生会の会是である「愛情」、「奉仕」、「連帯」の精神を遵守し、入居者が地域社会の一員として、主体的な生活ができるように、個々のプライバシーは守りながら、社会生活力の増進に向けた支援を行います。

目標

- 1 「リスク管理は気付きから」をスローガンとして、入居者が自立した生活ができるように支援を行います。
- 2 入居者一人ひとりの人権の尊重と障がいの理解を基に、生活者としての自己選択、自己判断、自己決定ができるよう支援します。
- 3 個々のニーズや課題に基づき、主体的な自立生活への支援と必要に応じ雇用主や事業所との調整を行います。
- 4 入居者の社会生活力の増進に努め、文化的、社会的、経済的な社会参加を促進します。
- 5 入居者の休日などは余暇活動ができるよう支援します。
- 6 スーパー等店が近くにないので、週に1度グループでの買い物送迎の支援をします。
- 7 金銭管理、健康管理、服薬管理のできない方には、個別支援をします。

利用定員、職員配置状況

- 1 利用定員 10名
- 2 職員配置状況

(1) 職員定数常勤 1名

職名	勤務時間
管理者	ウィール所長兼務
管理人	17:30～8:30 週6日勤務

事業計画

- 1 入居者の個々のニーズと課題を把握し、自立生活への支援を行います。
- 2 入居者10名の維持に努めます。
- 3 休日の趣味活動、余暇活動を支援します。
- 4 こくふゾーンの防災計画に沿って、火災や地震に備えた避難誘導及び消火訓練を実施します。

今後の検討課題

- 1 福祉ホームは日常生活の自立者が入居の要件となっていることから、介護保険制度によるヘルパー支援が受けられないため、部屋の掃除や大きい衣類の洗濯等自費での有料ヘルパーの援助を受けている方がいます。
- 2 夜間は管理人が勤務していますが、日中の職員配置がなく、病気や緊急の対応は、近隣のウイール社や障害者支援施設こくふの支援を受けざるを得ない現状となっています。
- 3 コーポラスこくふが建てられて 20 年以上となり、老朽化への修繕対応が必要となっています。
- 4 年齢 60 歳以上の方が 5 名入居していて、今後も増えると思われます。日常生活機能の低下や認知症を伴ってくることが予想されるなか、早期より介護保険のサービスも視野に入れた準備をしていく必要があります。
- 5 2 階居住の身体障がい者（肢体不自由）の階段の上り下りが困難になりつつあります。1 階の入居者が日常生活に介助が必要となり、他の施設等へ転居し空室とならない限り転室とならないため、緊急の課題となっております。